

1. 環境経営方針

[基本理念]

株式会社シントーは、地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つである事を認識し、企業のあらゆる面で地球環境の保全に配慮して行動し、それと共に住みよい地域の発展に貢献することとして、基本方針を定める。

〈社是〉 良い品を安く造る

〈社訓〉 一、互に敬愛し信頼と善意とを以て社内生活を明朗にする

一、強い責任感を以て職分を遂行する

一、技術の向上習熟と創意工夫とを重んずる

一、質素を旨とし節度と礼儀とを重んじ心身を健全にする

[基本方針]

プラスチック製品の製造に関わる全ての生産又は消費活動とこれらの製品及びサービスの環境影響を低減するために、環境関連法令並びに、同意したその他の要求事項を遵守し、環境経営システムにより下記の項目について継続的な改善を進めます。また、SDGsの取り組みにもチャレンジしていきます。

イ) 地球温暖化抑制運動の推進に努めます。



ロ) 事業設備からの機械作動油及び、プラスチック原材料の漏洩防止に努めます。



ハ) 廃棄物の分別適正処理を行うと共に、廃棄物処理の削減に努めます。

ニ) 事業設備及び、事務所に係わる天然資源（電気エネルギー・自動車燃料・上下水道・ガス）等の使用量削減に努めます。



ホ) グリーン購入を積極的に推進します。



3.全従業員に環境方針並びに地球環境の大切さを教育し、意識の高揚及び保全活動を推進するため全ての組織、従業員が活動できる環境管理組織を整備します。

4.社内の連携を密に、海外メーカーに負けない効率的で高品質な「ものづくり」を心がけ、生産工程から発生する環境負荷の低減に取り組むと共に恒久的な環境に配慮した経営を推進します。

5.環境経営方針及び環境経営活動レポートは社外の求めに応じて開示します。

制定日：2019年10月01日

株式会社 シントー

代表取締役

横 龍 勲

2. 対象範囲

認証登録範囲は本社、宮城営業所、山形工場の全ての活動
(活動期間 2021年4月1日～2022年3月31日)

3. 組織の概要

■事業者名及び代表者名

株式会社シントー 代表取締役社長 横瀧 勉

■所在地

本社 千葉県松戸市南花島1丁目4-3-301
TEL : 047-375-8183 FAX:047-375-8184
URL http://www.sintoh.co.jp

山形工場 山形県新庄市福田字福田山711-54
TEL : 0233-22-6557 FAX:0233-22-9559

宮城営業所 宮城県亶理郡亶理町大字新町59-6
TEL : 0223-35-7910 FAX:0223-35-7911

■環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

環境推進責任者 高橋 新二 事務局担当者 佐藤 美紀 (山形工場)

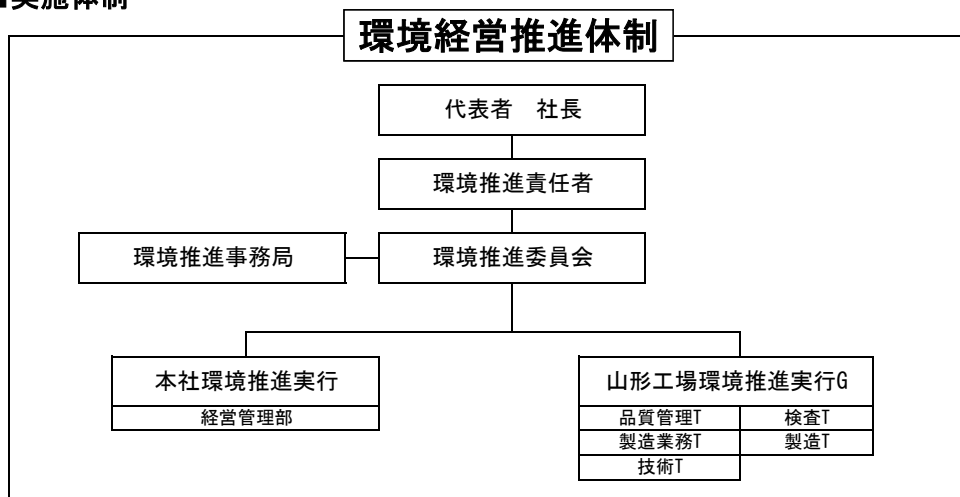
■事業の内容

本社 山形工場 : プラスチック製品の製造 (射出成形及び組付け)

■事業の規模	2021年度 活動規模	単位	2021年度		
			本社	山形工場	宮城営業所
	生産量	t	—	85	—
	出荷額	百万円	—	334.8	—
	従業員	人	2	23	5
	床面積	m ²	49.47	2,301.28	235.37

- 沿革 1931年 8月 東工舎創立
- 1989年 5月 山形県新庄市に敷地18,327㎡ (5,553坪) を取得 (現: 山形工場)
- 1995年 12月 (株)東工舎 (現: 東京工場) と(株)シントー (現: 山形工場) が合併して(株)シントーとなる
- 2000年 11月 株式会社リコー、環境マネジメントシステム登録工場取得
- 2006年 11月 エコアクション21環境マネジメントシステム認証取得 (山形工場)
- 2007年 9月 エコアクション21環境マネジメントシステム認証取得 (東京工場)
- 2008年 8月 ISO9001品質マネジメントシステム認証取得 (東京・山形工場)
- 2009年 9月 エコアクション21環境マネジメントシステム、東京工場、山形工場認証統合登録番号: 0000963
- 2011年 11月 ISO9001: 2008認証更新 審査登録証 Q1295
- 2017年 12月 ISO9001: 2015認証更新 審査登録証 QMJ: 0021
- 2018年 1月 本社を足立区に移転、生産拠点を山形工場に移設
- 2019年 11月 宮城営業所(宮城県岩沼市)を開設
- 2020年 10月 本社を千葉県松戸市に移転
- 2021年 2月 宮城営業所を宮城県亶理町に移転

■実施体制



4. 環境関連法規制への違反・訴訟等の有無

(株) シンソーでの事業活動にかかわる、全ての関連法規を抽出、整理し、取りまとめています。

主な関連法規	対象物	主な関連法規	対象物
騒音規制法・振動規制法	射出成形機・コンプレッサー・粉碎機	電気事業法	自家用電気設備
廃棄物処理法	廃プラ・廃油・水銀使用製品	PCB廃棄物特別措置法	コンデンサー、トランス
消防法	消防用設備	フロン排出抑制法	第一種特定製品(業務用エアコン)
大気汚染防止法	小型ボイラー	省エネ法	電気・重油・灯油・ガソリン等
浄化槽の管理	浄化槽	火災予防条例	危険物(重油・機械作動油・灯油等)
家電リサイクル法	廃棄する家電4品		

※国・都・県・区・市関係の法規制等(改正)については、常に入手できるように1年毎に
関係機関(都、区、監署、工業部会)のホームページへアクセスして対応しています。

※遵守状況は6月に確認、遵守されています。

公害防止関連の規制、廃棄物リサイクルに関する規制、消防等の

規制違反について、関係機関から過去5年間に指摘は無く、訴訟等もありません。

5. その他の活動 ①・②【山形】 ③【全社】

- ① 工業団地内清掃活動
- ② 工場内除草作業(除草剤・草刈り機使用)
- ③ SDGsへの取り組み
 - ・社員全員で終業時刻20分前から毎日清掃活動(5S活動)
 - ・不使用電気機器の電源OFF休憩時の消灯実施
 - ・裏紙利用・データメール送付の活用の継続



6. 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組内容

- ・環境経営目標(単年度・中長期)

環境経営目標項目	単年度目標	中長期目標(3年)	
	2021年度目標 (2021.4~2022.3)	2018年度基準年	2019年4月~2022年3月 (3年)
1 電力使用量の削減	2018年同期比3%削減	2021年度までに2018年度実績値の3%削減を目指す	
2 廃棄物排出量の削減 ※2019年度基準年・・・2018年度の排出量の内訳と相違が発生した為。	2019年同期比2%削減	2021年度までに2019年度実績値の2%削減を目指す	
3 水道使用量の削減	2018年同期比3%削減	2021年度までに2018年度実績値の3%削減を目指す	
4 CO2排出量の削減	2018年同期比3%削減	2021年度までに2018年度実績値の3%削減を目指す	
5 生産性向上活動(客先クレーム件数低減の達成)	2018年同期比3%増加	2021年度までに2018年度実績値の3%増加を目指す	
6 グリーン購入推進	現状把握	グリーンマーク商品を優先的に購入する	

<山形工場>

「評価基準」受注量に変動があり、それに伴い機械稼働率も変動する為、売上高当たり(売上百万円あたりの使用量・排出量)で換算し結果を評価した。(下段表示)

項目	単位	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
売上高	百万円	381.92	491.30	292.60	334.80

No	取組項目(年間)	単位 評価基準	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2021年度	増・削減率	評価	2022年度	
			実績値	実績値	実績値	目標値 (3%減)	実績値			目標値 (1%減)	
1	電力使用量	山・本	kwh	748,657	674,972	563,470	726,197	618,000	-17%	○	627,144
		山形	kwh	740,746	668,577	560,826	718,524	616,726	-	-	610,559
			kwh/百万円	1,940	1,595	1,917	1,882	1,842	-5%	○	1,824
		本社	kwh	7,911	6,395	2,644	7,674	1,274	-84%	○	1,261
	宮城	kwh	-	-	-	-	15,479	-	-	15,324	
2	廃棄物排出量 (単純焼却 最終処分量)	山・本	Kg	14,690	18,970	20,310	(2%減) 18,591	21,215	44%	×	21,003
		山形	Kg	14,690	18,970	20,310	18,591	21,215	-	-	21,003
			kg/百万円	38.46	45.24	69.41	44.34	63.37	65%	×	62.74
		本社	Kg	-	-	-	-	-	-	-	-
	宮城	kwh	-	-	-	-	-	-	-	-	
	※2019年度基準年										
3	上水道使用量	山・本	m3	724	620	461	702	748	3%	×	1,036
		山形	m3	687	593	446	666	738	-	-	731
			m3/百万円	1.80	1.41	1.52	1.75	2.20	22%	×	2.18
		本社	m3	37	27	15	36	10	-73%	○	10
	宮城	m3	-	-	-	-	298	-	-	295	
4	CO2排出量	山・本	Kg-co2	413,935	379,150	323,217	401,517	331,158	-20%	○	351,972
		山形	Kg-co2	392,577	358,654	318,168	380,800	327,307	-	-	324,034
			Kg-co2/百万円	1,028	855	1,087	997	978	-5%	○	968
		本社	Kg-co2	21,358	20,496	5,049	20,717	3,851	-82%	○	3,812
	宮城	kwh	-	-	-	-	24,370	-	-	24,126	
5	品質改善活動(客先クレーム件数低減)の達成	山形	0件以下達成月	95.8%	70.0%	100.0%	(3%増加) 98.8%	100.0%	4.4%	○	(1%増加) 100.0%
6	グリーン購入	山形 本社 宮城	積極的にグリーン購入の推進を行う。対象品目が多岐にわたる為、実績値は出さず現状把握する。								

※二酸化炭素排出量は、電力、ガス、ガソリン、軽油の合計とし、H30(2018年)12.27公表の排出係数を使用。

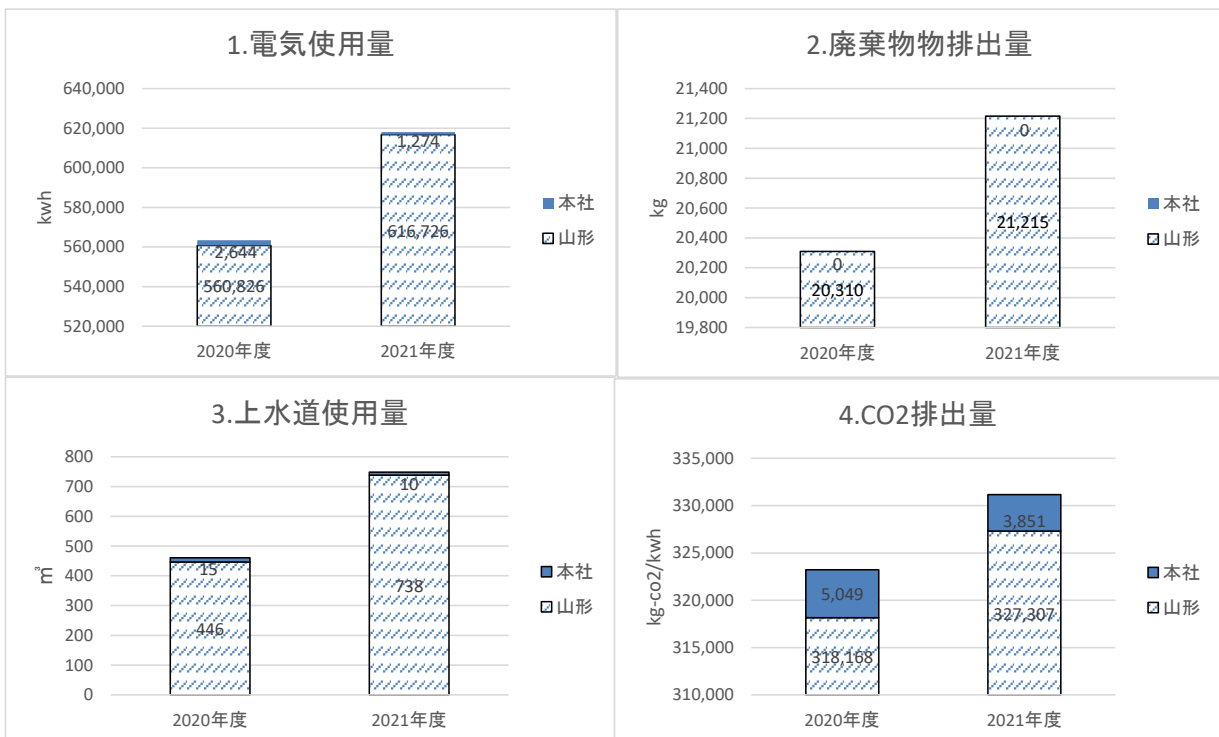
本 社 : 東京電力排出係数0.462kg-co2/kwhを使用

山形工場 : 東北電力排出係数0.523kg-co2/kwhを使用

下段(売上百万円あたり使用量)

宮城営業所: 認証初年度の為実績値のみ計上

※化学物質は使用していない。



7. 環境経営計画に基づき実施した取組結果評価及び次年度への取組課題

○：十分に取組んだ

×：取組不十分

△：一部取り組めていない

No	環境経営計画	環境活動項目	取組結果と評価	評価	次年度への取組課題
1	電力使用量の削減	自社、省エネルギーの遵守	不使用電気機器の電源OFF休憩時の消灯実施。休憩時、一部消灯されていない箇所を発見。周知徹底を図った。	○	継続して省エネルギーを実施する。朝礼・ミーティング等を利用して節電の徹底を周知していく。ボスターによる節電の呼びかけを行う。
		成形機の効率的稼働	朝の機械への熱の入れ方をずらして、朝時点のデマンド最大値を減らしている。	○	成形機パー一人一台の管理者から一人複数台の管理を担当することにより効率的な稼働を目指す。
		デマンド管理システムによる監視・低減	電気のコルカタ企業に、更新した新機種の新デマンドメーターの使用法やスマートロックの有効な活用方法の指導を受けた。	△	デマンドシステムのアラームが鳴った際の対処法についてマニュアル化を進めていく。
		設備の見直し	工場内の手元照度を確保しつつ、6ヶ所をLEDに切り替えた。古い外灯を撤去し、LEDの外灯を設置した。故障中のE77を社内修理し必要部署に設置した。	○	第一工場の全ての電灯をLEDに変更予定。工場以外の室内灯を徐々にLEDに変更予定。人感センサーを4ヶ所設置予定。駐車場の照明をタイマ仕様に変更予定。
2	廃棄物排出量の削減	廃棄物の分別・処理の徹底	毎日一定の清掃時間を設け、全社員一丸となり工場内の整理整頓を行ったことから分別処理が進んだ。重りで廃棄物を圧縮し、一度の回収でより多く廃棄出来るよう、料金節約に努めた。	○	産廃引取り業者をオール環境サービス(株)へ代替し、以前より処理費用も割高な為、産廃物回収を減らし、リサイクルを増やしていく。
		紙類の再使用化及び排出低減	必要に応じて裏紙利用・メールの活用を継続している。納品書・現品票に使用する専用紙は印刷方法を工夫し無駄遣いしない様に取り組んでいる。	○	裏紙利用・データメール送付を活用し低減に取り組む。ガンホールの継続使用を見極め分別を守りリサイクル率向上を目指す。
		不良品低減による廃材排出削減	リサイクル出来ていた物が業者回収の単純焼却になり、受注数も2020年度より増えつつある為廃棄量増加。	×	後継となるリサイクル業者へ回収依頼予定。(8月～)
3	水道使用量の削減	節水全般	より目に留まりやすい箇所への新ボスター掲示による節水の呼びかけ。パトロールでの見回りを実施した。音姫利用。	○	流しっぱなしの防止、節水ステッカー、掲示物等の継続で節水を喚起。掲示していない箇所へのボスターの掲示の徹底。
		設備の漏水点検	第二工場全体の冷媒循環システムの不調対応に当たり冷却水の排出を行っていた為水道使用量が非常に大きくなっていった。冷媒循環システムの根本的な改修を行い、冷却水の排出が不要になった為使用量は大幅に改善し、昨年程度まで戻すことが出来た。	△	クーリングタワーの清掃を7月実施予定。 1回/日の水道メーターチェックで前日との対比、異常の早期発見につなげる。クーリングタワーの補修工事を予定、ベアリングボックスの交換工事も品到着次第実施予定。
		水道使用量の管理			
4	CO2排出量の削減	電気、廃棄物、水道の削減計画を確実に実行。	省エネルギーに基づき活動を実施し電気は削減出来たが、廃棄物・水道は削減目標を達成出来なかった。	△	電力、廃棄物、水道使用量の取り組みを実施してCO2の削減につなげる。
		ガソリン使用量の削減 エコドライブの推奨	テレビ会議を多く活用した為、拠点間の定期的な移動も必要最小限に留められ、ガソリン使用量の減少に繋がった。移動の際は常に乗り合いするよう心掛けている。	○	テレビ会議の活用、拠点間の移動の際の乗り合いの継続をしていく。 エコドライブの推奨(掲示物、冊子配布等)
5	生産性向上の推進	ISO(QMS改善活動)客先クレーム(ロケット・ラインクレーム)件数削減活動実施	プロセス改善による体質強化、日常管理では仕事のやり方、仕組みを守って同じ状態に保つ事が出来た。	○	方針管理では仕事のやり方、仕組みを変えて結果を良くする事で体質強化を図る。
6	グリーン購入の推進	事務用品、備品等CO2対象品を優先的に購入する。	備品・事務用品を中心に購入時に優先してグリーン商品を購入している。	○	事務消耗品、日用品に限らず、購入都度CO2マーク等のグリーン商品を確認、検討、可能な限り転換する。

8. 代表者による全体の評価と見直しの結果

2021年度の活動報告を受け、環境経営計画を立て環境改善活動を実践してきたことは評価したいと思います。また、省エネ、CO2削減、ゴミから資源への意識改革をさらに自分の事として認識し改善を推し進めた事も評価できる。但し、目標値を設定し活動は進めたものの目標未達が2項目ある。2項目は全て経営活動に直結する重要テーマで有ることを再度認識し目標達成に向け再度チャレンジしてもらいたい。素材を層別し廃棄すれば資源、混ぜて捨てればただのゴミ。不良低減も不良の選別手直しではなく不良の出ないプロセスを構築し失敗コストの抑制や不良品破棄も層別して廃棄し資源として再生する等を進めてもらいたい。結果を見て手を打ちながら先手、先手に予知予防をして再発防止を図り、環境に優しい改善活動を推進してもらいたい。

2022年度環境目標及び環境経営計画

2021年度基準年として-1%削減を目標とする。

2022年4月～2023年3月

No	環境経営計画	環境経営目標	単位	環境活動項目	責任部門 責任者	スケジュール 4月～3月
1	電力使用量の削減	電力使用量 全社 627,144 山形 610,559 本社 1,261 宮城 15,324	Kwh	自社、省エネルギーの遵守 成形機の効率的稼働 デマンド管理システムによる監視・低減 設備の見直し	製造T 国分	(左記達成手段全て) →
2	廃棄物排出量の削減	廃棄物排出量 全社 21,003 山形 21,003 本社・宮城 0	Kg	廃棄物の分別・処理の徹底 紙類の再使用化及び排出低減 不良品低減による廃材排出削減	製造T 木村	(左記達成手段全て) →
3	水道使用量の削減	水使用量 全社 1036 山形 731 本社 10 宮城 295	m ³	節水全般 設備の漏水点検 水道使用量の管理 設備の見直し	技術T 笹原	(左記達成手段全て) →
4	CO2排出量の削減	CO2排出量 全社 351,972 山形 324,034 本社 3,812 宮城 24,370	Kg-CO2	電気、廃棄物、水道の削減計画を確実に実行。 ガリンの使用量の削減 エコドライブの推奨	製造業務T 佐藤(美紀)	(左記達成手段全て) →
5	生産性向上活動の推進	山形 100%	%	ISO(QMS改善活動)客先クレーム件数削減活動実施	品質・検査T 浅沼	(左記達成手段全て) →
6	グリーン購入推進	山形 本社 宮城	-	事務用品、備品等CO2対象品を優先的に購入する。	経営管理部 佐藤(亜矢)	(左記達成手段全て) →